

6

ホテルのリニューアルに省エネ効果の高いEHPシステムを導入

このホテルの空調熱源には、重油を燃料とする吸収式冷温水機(セントラル方式)を使用していましたが、経年劣化による性能低下や建設時と比べ重油価格が2倍近く値上がりしランニングコストの増加に苦慮していました。

全館リニューアル計画に合わせ、省エネ効果の高いEHP(個別分散方式)への設備変更を計画しました。

重油焚き吸収式冷温水機運転時には、搬送ポンプ類の稼働が電力使用量の大きなウエイトを占めていたと考えられ、導入前後で電力使用量は、大差がなく、その結果エネルギー使用量の大幅低減を図ることができました。

電気式は多彩なラインナップがあるため、客室にあわせ最適、快適な空調機を選択可能です。

改善効果

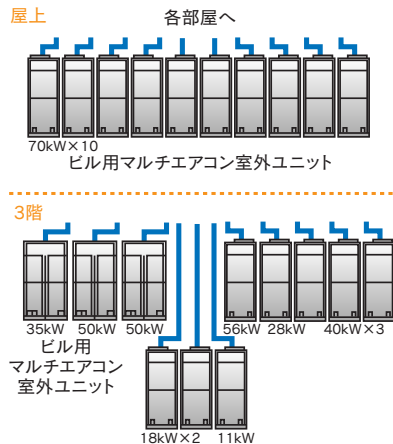
- A重油焚き吸収式冷温水機と比べて
 - ・年間エネルギー費用33%低減
 - ・CO₂排出量42%低減*
- A重油、クーリングタワーの水道代、メンテナンス代の大幅削減で効率経営が実現
- 導入前後で電力使用量に大差なくリニューアルが可能
- 個別の温度調節も可能で客室の快適性向上

設備概要

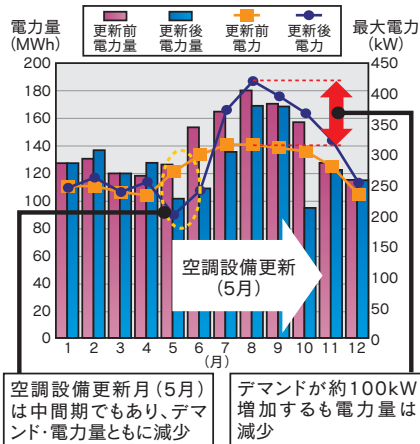
- ビル用マルチエアコン

70kW×10台	56kW×1台	50kW×2台
40kW×3台	35kW×1台	28kW×1台
18kW×2台	11kW×1台	

システム図



空調設備更新後のメリット検証



* 電力のCO₂排出係数:0.555kg-CO₂/kWh
A重油のCO₂排出係数:2.709kg-CO₂/ℓ